

所属・資格 哲学科・准教授

申請者氏名 土屋 睦廣

研究課題		古代後期におけるプラトニズムの研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	西洋の古代後期思想におけるプラトニズムの伝統を、プラトン『ティマイオス』の受容と再解釈という観点から解明することを目的として、原典資料の精査とそれらに関わる研究文献を参照・検討した。本年度はとくに、プラトニズムの伝統において歴史的に重要な位置を占めるカルキディウスの『プラトン「ティマイオス」注解』を中心に研究を進めた。
	研究の結果	カルキディウスに関して現在でも決着がつかない基本的な問題、カルキディウスの生きた時代と場所、人物像について（これは彼に『ティマイオス』のラテン語への翻訳を依頼した人物 Osius の同定と表裏一体である）、20世紀初頭以来の先行研究の検討と、これまでの私のカルキディウス研究からの総合的な判断として、私なりの一定の結論を得るに至った（5世紀初頭ミラノで活動したとする Waszink の説は根拠薄弱であること、4世紀前半という伝統的見解は総合的に見て支持しうること、カルキディウスはギリシア語が第一言語であったことなど）。また、カルキディウスの思想史上の位置づけに関して重要な点としては、新プラトン主義の影響の有無、ことにポルピュリオスの著作を見ていたかどうかについて、否定的な結論を得るに至った。
	研究の考察・反省	本研究の成果は、従来の西欧古代後期思想のイメージに再考を促すものと考えられる。すなわち、古代後期の思想は新プラトン主義一辺倒であったわけではなく、当時のプラトニズムには多様な思想があったこと、新プラトン主義が大きな広がりを見せるのは4世紀後半以降であることが推察される（もちろん、これらを十分に論証するにはさらなる研究を要する）。 原典資料の解読には多大な時間がかかることは承知していたが、今年度は新任ということもあり、授業の準備や学務に追われ、研究の時間が十分に取れず、当初予定していた研究範囲をすべてカバーすることができなかったことは、反省点である。今後は研究時間の捻出に工夫・努力したい。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>研究発表 日本大学哲学会第69回学術研究発表会 「カルキディウスの思想史上の位置づけについて」 2018年10月20日、日本大学文理学部。</p>	